



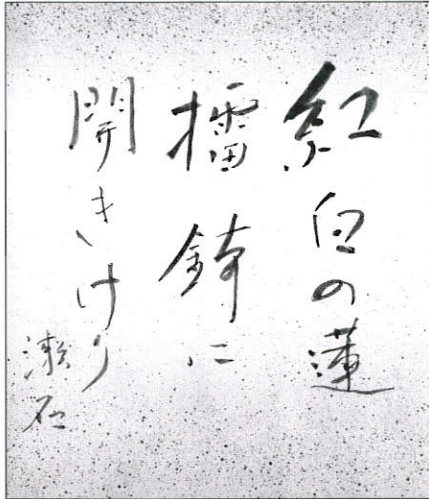
第 77号
 (発行所)
 真宗大谷派
 松岡山 廣讚寺
 中村区城屋敷町3-30
 TEL (052) 411-5301
 FAX (052) 411-5341
 携帯 090-1568-4623
 <E-mail>
 matsuoka@kosanji.or.jp

分陀利華

正信偈の中に

是人名分陀利華

と出てきます。分陀利華とはブンダリーカというサン
 スクリット語の単語を音訳したものです。そして白蓮



華を意味しまし
 ます。

如来の誓願を
 聞き信ずる人を
 分陀利華と名づ
 ける。



高原の陸地には蓮華を生ぜず。卑湿の淤泥に、いま
 し蓮華を生ず。『維摩経』

欲望でいっぱいこの娑婆世界、そんな汚泥の中で
 こそ咲く白蓮華。

死者との対話

石川 湍

死んだあなたと

もう語り合うことはない

あなたが生きていた時

あなたの言った言葉が

繰り返しわたしに語り掛ける

柩に入ったあなたに

わたしが語り掛けても

あなたは頷くでもなく逆らうでもない

わたしの言葉だけが

小さな洞ろの木霊こだまのように

全てわたしに戻って来る

あなたは語る

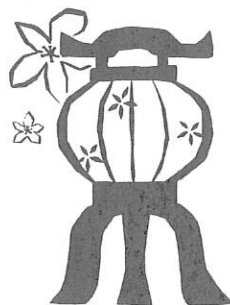
同じ声音で

あなたは繰り返し返す

同じ言葉を

暁天講座から

釋 綽智



一雨欲しい梅雨時、女性蔑視ヤジや、サッカーワールドカップ杯が気になる中、久しぶりに暁天講座を正賢寺さんで拝聴しました。

講師は西区で住職をされている蒲池勢至先生かまいけせいしで、テーマは「介護と死に方」といった身近な問題だった。

テーマについて、さらに集団的自衛権↓戦争↓死へと
いった風潮があることも指摘され、人は介護や死に方
について本当に迷うもので、先生ご自身も奥様の介護
を30年され、その体験を通して熱く語られ、つい身が
入ってしまった時のたつのも忘れるくらいでした。特に
感心したところをお伝えします。

一、30年の介護「語りたくもあり、語りたくもなし」

かといって、一度も介護をいやだと思ったことが
ないと語られた時のお顔に何か充実感が伝わって
きました。

二、自分の死に方など考えなくてよい

一人一人に死に方は与えられたもの。だから、自
分がどこへ行くのかを考えておくようにと諭され
た。死んだら地獄か極楽か夜空の星かと思いをめ
ぐらす。善因善果ですね。

三、いかに死なせるか

少しきつい言葉なのだが、臨終や終末期医療に善
悪は不要である。

先生の奥様は言葉が出ない水頭症にかかられた。
その後も大腸ガンや肝臓ガンが加わる。そうする
と妻の猛烈な苦しむ姿を見ると介護者である私は
耐えきれなくなった。

モルヒネだけを注射して余分な栄養を与えなく
する方法でしかなかった。手術すれば20%の生存
率。あれもこれもしてやれなかった悔悟の念がい
っぱいになったが、いつもそばにいてやれたこと
が救いで、これが慈悲という仏心なのでしょうかと
結ばれた。

身内とはいえ30年の介護生活の内容を聞いて、私の
悩みなど取るに足りないことなのだと思えて気がさ
れました。

行事予定

八月九日(土) 七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十九日(火) 二時～四時 学習会

二十八日(木) 十時 二十八日講・女人講

お盆休みにお参りください

八月十三日～十五日の期間

本堂にてサイダーを用意しております。

(8時～17時まで)



九月十三日(土) 七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十四日(日) 八時 庭そうじ

(昼おとぎ後、解散)

十九日(金) 二時～四時 学習会

二十三日(祝) 十時 秋季彼岸会

説教 廣瀬純史師

廣讚寺講総会

おかみそり

二十四日(水)

二十五日(木) 三時 彼岸お勤め

二十六日(金) 住職説教

二十八日(日) 十時 二十八日講総会